

World Resources Institute  
*World Resources 1994-95*

Oxford University Press, New York, 1994, xii + 400pp.

World Resources シリーズの6作目にあたる本書は、世界資源研究所 (World Resources Institute), 国連環境計画 (United Nations Environment Programme), 国連開発計画 (United Nations Development Programme) の三者によって作成されたものであり、自然資源や環境問題に関する大量の情報を収めている。1994年9月のICPD (国際人口・開発会議) を強く意識した内容となっており、「人々と環境 (People and the Environment)」を中心的なテーマとしている。

第1章「自然資源の消費」、第2章「人口と環境」、第3章「女性と持続可能な開発」の3つの章から構成される第I部は、特にICPDとの関連が深く、第I部だけを抜き出した特別編集版がICPD第3回準備委員会で配布された。

第1章では、枯渇性・更新性資源の現状が分析され、枯渇の危機に瀕しているのは、枯渇性資源ではなく更新性資源であるという結論が得られている。消費が環境に与える影響は、ライフスタイルや工業の活発さだけで決まるものではなく、生産の地理的なパターン、貿易の条件、技術水準、貧富の差にも依存することが述べられている。

第2章で論じられているのは、人口が環境に及ぼす影響である。ここでは、都市・農村のいずれで増加が起こるか、増加した人口の人的資本としての水準はどうかといった、人口規模以外の要因の重要性が強調されている。3つの事例研究——フィリピンとコスタ・リカの未開地への人口移動、およびアメリカ合衆国の海岸地域の人口増加——について述べられており、環境破壊の現れ方は、貧富の差、自然資源に対する政策、土地保有制度、さらには経済状況一般に依存することが示唆されている。章全体としては、環境問題のうち、土地利用変化に関する問題を重点的に取りあげている。

第3章は、ICPDの中心概念である reproductive health を強くは打ち出していないものの、女性の役割を持続可能な開発を実現するための重要な要因と位置づけている点で、ICPDの行動計画案と共通した性格をもっている。財産、就業、教育、政治に関する両性の不平等を強調し、家族計画のサービスだけでなく、女性の教育や保健への投資が、人口増加を緩和するうえで重要であるとしている。

第II部は、特定の地域の特集であり、中国とインドという2つの人口大国を取り上げている。中国については、急激な経済成長と環境問題との関係が、インドについては、工業化、人口増加、貧困と自然資源との関係が、それぞれ分析の対象とされている。

第III部では、章ごとに、「食糧と農業」、「エネルギー」、「水」、「大気と気候」などのテーマについてその現状と動向とが分析されている。前作の1992-93年版と比較すると、「国際機関」の章が新たに付け加えられている。

第IV部は統計資料であり、各国のGNP、GDPなどの経済指標、人口規模、人口増加率などの人口変数、温暖化ガスの排出量のデータを含む地球環境問題を考えるうえで有用な数値が掲載されている。

地球環境問題を分析するシンクタンクとしては、世界資源研究所と Lester R. Brown を所長とするワールドウォッチ研究所 (Worldwatch Institute) とが有名であり、どちらもアメリカ合衆国に本部を置く非政府機関であるが、後者の報告書である *State of the World* シリーズが読みもの風であるのに対し、前者の *World Resources* シリーズは詳細な文献レビューに基礎をおき、資源・環境の現状を網羅的に扱うものとなっている。

(今井博之)